



# うちどく 家読のススメ

No.5  
2018.3発行



うち ほん よ うちどく  
「家のみんなで本を読む」=家読

たとえば…

- みんなで同じ本を読んで、感想を話してみる
- それぞれが最近読んだ本の紹介をする
- 絵本の読み聞かせや本の朗読をする

やり方はいろいろです

この本おもしろい！という気持ちを家族でシェアしませんか  
本をきっかけに おしゃべりしましょう♪

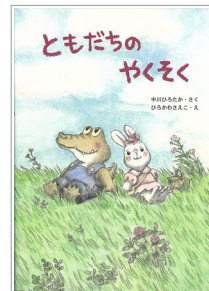
## ～ 友だちの本 ～

春は、別れと出会いの季節です。卒園・卒業、引っ越しで友だちと離れ離れになったり、入園・入学で新しい友だちが出来たり。ワクワク・ドキドキする一方、とまどいや不安もあるかと思えます。新しい環境を迎えるにあたり、友だちについて考える本や、勇気が出る本を紹介します。ぜひ親子で手に取ってみてください。



『ともだちがほしいの』

柴田 愛子 // 文  
長野 ヒデ子 // 絵  
ポプラ社



『ともだちのやくそく』

中川 ひろたか // さく  
ひろかわ さえこ // え  
アリス館

引っ越してきたばかりのふうこちゃん。近くにある「あそび島」に行ってもなじめなくて、まいごみたい。友だちを作るって、パワーがいるけど、勇気を出して、ひと言。「一緒に遊ぼう！」

仲良しのウーと、学校が別々になってしまったカイ。ウーに会いたくてたまらないカイは、ウーと手紙で会う約束をします。カイは約束の日が待ち遠しくてたまりません。かわいい二人の友情の物語。

『ともだちや』 内田 麟太郎 // 作 降矢 なな // 絵 偕成社

キツネは“いちじかんひゃくえん”の「ともだちや」。でも、言いたいことを言えなかったり、がまんしたりと、「ともだちや」も楽ではありません。今度は、オオカミに声をかけられたキツネ。時間が来て、お代をちょうだいしようとしたら、オオカミは…本当の「ともだち」っていいな、と思える1冊です。

『あらしのよるに』 木村 裕一 // 作 あべ 弘士 // 絵 講談社

嵐の夜に、雨宿りした小さな小屋で出会ったヤギとオオカミ。お互いの本当の姿に気づかないまま、次第に仲良くなる二匹。姿がわからないからこそ芽生えた友情に、ハラハラドキドキします。

『ええところ』 くすのき しげのり // 作 みるしょう ようこ // 絵 学研教育出版

わたしに“ええところ”ってあるのかな。あいちゃんは自信がなくて、仲良しのともちゃんに聞いてみました。ともちゃんは、あいちゃんの“ええところ”を一生懸命考えてくれます。「わたしも見つけた、ともちゃんの“ええところ”」。相手を思いやる、やさしい気持ちにあふれた絵本です。